

島根支部 兵教大 大学院 同窓会

第 14 号

平成25年3月20日発行
兵庫教育大学大学院同窓会
島根支部広報部編集
題字 松本幹彦先生
発行者 梶谷光弘
印刷 (有)川本印刷所

巻頭言

兵教大大学院同窓会

島根支部の過去・

現在・未来



兵庫教育大学大学院同窓会
島根支部会長 梶谷 光弘

平成二五年の巳年がスタートしました。今年も正月から島根県の出身である女流棋士の里見香奈さん、男子テニスの錦織圭さん、映画監督の錦織良成さんらのニュースを聞き、とても嬉しく思いました。それをきっかけにして、私は、里見香奈さんや錦織圭さんに関するたくさん本を読み、また映画館にも出かけて「渾身」の映画を観ました。

作家の瀬戸内寂聴さんがかつて、「人にはそれぞれ持って生まれた才能がある。それを仕事にできて、しかもそれが人の役に立つなら、こんな素晴らしいことはない。」と言われましたが、彼らはその言葉通りの生き方をしています。

彼らの活躍を聞くにつけ、子どもがそうした夢に立ち向かうことを支え、応援してきた我々教師もまた、とてもやりがいのある、すばらしい仕事だと感じました。課題をたくさん抱えている学校現場、たと思いますが、兵庫教育大学大学院で学んだ者として、教師の自分を自覚し、そして、これからの教師の在り方もしっかりと見据え、日々の教育に邁進したいと思えます。

1. 隠岐大会の開催

平成二四年八月四日、兵庫教育大学大学院同窓会島根支部総会を「隠岐プラザホテル」で行いました。総会前に行った研修会では、隠岐ジオパーク協議会の野邊一寛氏から講話をしていただき、その後、飛行機で到着さ

れた加治佐哲也兵庫教育大学長を空港で迎え、一緒に島内の巡検を行いました。晴天に恵まれたこともあって順調に廻ることができ、隠岐ジオパークのキーワードである「人の営み」、「独自の生態系」、「大地の成り立ち」を直接肌で感じる事ができました。途中、映画「渾身」の撮影が行われた土俵も見せてもらいました。

そして、総会には、森 哲教隠岐教育事務所長をはじめ、学部の卒業生の方も参加され、とても賑やかな雰囲気になりました。お世話いただいた齋藤尚文隠岐ブロック長には心から感謝申し上げます。次の総会は、浜田支部にお願いしています。

2. 平成二五年度派遣者を励ます会の開催

平成二五・二六年度の兵庫教育大学大学院への派遣の知らせを年末に受け、たいへん喜びました。昨年、兵庫教育大学から加治佐学長が来県され、島根県教育委員会を訪問された際、島根県からの派遣について熱意をもってお願いをされました。

さっそく希望者が募られ、隠岐教育事務所管内から浜田耕一教諭(都万中学校)の派遣が決定しました。二月九日(土)には、「サンラポ一むらくも」において「派遣者を励ます会」を開催しました。

同時に、これまで二年間派遣されていた並河智之教諭(西益田小学校)が内留を終えら

れ、四月から現場に復帰されます。これからの活躍を期待します。

3. 兵庫教育大学大学院同窓会島根支部における研修の充実

島根支部では、これまで夏の総会と冬の励会との年2回を目標に研修会を開催してきました。修了生を中心とした実践発表や、兵庫教育大学の先生方をはじめとする外部講師による講演会などを行ってきました。今、国では教員養成の在り方や学級編成基準の見直しが検討される一方、学校現場では保・幼・小、中の連携・一貫、学校図書館の充実、職場における同僚性などが積極的に推進されています。

島根県の教員の年齢構成に目を移すと、これからの一〇年間は大量の退職者が予定され、急激な世代交代を迎えます。こうした状況において、教師は何を大切に、何を若い教師に伝えていくべきか、教師の在り方そのものを問い直していくことが大切になります。そして、そのうち、文字で伝えることができること、言葉と行動で伝えること、子どもを通して伝えること、先輩の後ろ姿で伝えることなど、具体的に、かつ先を見通した行動が必要になってきます。

同窓会ではこれからも現場のニーズを把握し、また兵庫教育大学とも連携しながら研修会を企画していきたいと考えています。ぜひ、同僚や知り合いの方を誘っていただき、一緒に考えてほしいと願っています。

4. 同窓会役員若返りへの期待

私自身を振り返ってみますと、同窓会の世話をするようになって約三〇年になります。これまでよく続いたものだと思ながら感心しています。本部や支部の役員を見ると、若い人に少しずつ交代していますが、それでも同じ役割を一〇年以上も続けている方がいます。「同窓」という関係の中で、教師として、また人間として、これらの生き方を語り合っただけだと思っただけです。四〇才代や三〇才代の方、ぜひ同窓会に積極的に参加してください。



兵教大とオーセンティック

・ラーニング(真正の学習)

島根県評議員 岩田 進

今年度、同窓会評議員を仰せ付かりました。

兵教大が、教員のための大学院大学として創設されたのが昭和五十三年で、その同窓会が結成されたのは、四年後の昭和五十七年で、総会も今年で第三十二回を迎えました。さて、新学習指導要領も実施されて二年習得した知識が社会との接点をもちつつ、社会そのものを創造していく学びである。「オーセンティック・ラーニング(真正の学習)」の進展は如何でしょうか。

初めに、県内の動静から
◇六月・加治佐学長が来県。県教育長への派遣の申請。終了後、梶谷会長(同窓会長)、岩田評議員と県の様子を聴取。その際、今年度の県総会が隠岐で開催という話が出て、学長の参加が決定しました。

◇七月・梶谷会長の了承を得て、今年度から新設の「ブロック会議経費」及び「支部活動助成金」の申請を受け、交付。

◇八月・四日(土)に、平成二十四年度兵教大(院)同窓会島根県総会・隠岐大会・齋藤尚文文化会館で盛大に開催。

◇H二十五・二月・九日(土)、「平成二十五年度兵庫教育大学院を励ます会」を、島根県生徒指導推進室の伊藤成二企画幹をお迎えし開催したが、荒天の為、フェリー欠航で浜田耕一先生は欠席であったが、参加者二十名と盛会となった。尚、会に先立って行われた役員会で、総会等への学部生の参加について、問題提起がなされたが、短時間のため、後日、再審議となりました。

次へ全国への動きについてですが、
一 現職教員の入学者が減少し、兵教大の運営に影響する。知り合いの方々に呼びかけてほしい。

一 「修了生」の教育実践研究活動等に係る表彰制度への応募のお願い。

一 教育実践ネットワーク(Hyokkyo-net)の利用について

一 「Hyokkyo」奨励奨学金の利用
①合格と同時に内定 ②返済不要 ③一人当たり100万円

「都道府県連携推進本部」による大学との
連携強化

一 修了生の個人情報収集並び管理
「Hyokyo-net」の(現場に役立つ教育問答)というコーナーが新設されましたので、困ったことなどを質問してください。例:「保護者からクレームが絶えない。」等、回答は、教授の先生方が答えられます。

一 「大学院連絡協議会」との強い連携。修了生の夏季研修会の講師の無料派遣。
一 島根県支部も貢献。
今年度から、平成二十七年五月三十一日まで以下の方々が広報部として、同窓会誌の作成に尽力なさいます。厚く感謝申し上げます。ともに、よろしく願います。

・広報部長 勝田 章氏
・広報理事 毛利直己氏
・広報理事 藤原尚幸氏
その他、本部の監事は、早川求氏です。来年度の島根県支部の同窓会は、「浜田大会」で、
①日時 平成二十五年八月十日(土)十四時
②会場 大田市の「あすてらす」
③日程 講演講師 大國晴雄氏(大田市教育委員会教育長 実践報告 修了者 有馬千香子氏)

(大田市立朝波小学校の予定であることが、山根明人(一期生)プロジェクト長から報告がありました。紙面がなくなりました。現在(平成二十四年七月四日)、島根県の修了生は一五〇名です。派遣希望者が、年々少なくなっておりま。島根県の教育の灯をともし続けていきたいと思います。

島根県総会 支部総会隠岐大会を終えて

平成十三年、平成十九年に続き、三度目の隠岐大会が、平成二十三年八月四日(土)に、隠岐の島町を会場に開催された。今回は、「遊ぼう!学ぼう!隠岐ジオパーク!!」をテーマに大会を計画した。
昨年の会報で紹介したように、隠岐の会員は、各学校で中核教員としてリーダーシップを発揮している。しかし一方で、公務多忙でなかなか同窓会にまで手がまわらないという

隠岐支部長 齋藤 尚文

のが実情であった。そこで、梶谷支部長から開催依頼があった際、「本当にやらないといけませんか」と二の足を踏んでしまった。ところが、有木副支部長を始め、会員の方々に相談するところ、協力するの是非やましよう」という返事をもらった。兵庫教育大学で学んだ者の絆温かさを感じたところである。

大会には、加治佐哲也学長、岩田進前支部長、加藤武行前出雲ブロック長、梶谷支部長はじめ役員のみならず、そして隠岐ブロックの会員など十六名の参加があった。
隠岐は、一昨年日本ジオパークに認定され、昨年は世界ジオパークへの認定を目指していた。研修として、この取組の様子を、隠岐ジオパーク協議会事務局の野邊一寛氏より説明していただいた。はじめに、ビューポイントホテル内にある隠岐海洋自然館において、隠岐の島の大地の成り立ち、地質の特徴、植物や動物など生態系の特徴を写真や標本を交えて説明していただいた。加治佐学長を隠岐空港で迎えた後、玉若鮮社、五箇福浦トンネル、久見黒曜石加工場などの巡検を行った。一部は、「癒やし」においてよ!隠岐へ!をテーマとした前回大会で観光した場所と重なったが、アカテミツクな説明を受けることで新鮮な眼で自然や人々の営みを体感することができた。

総会での学長あいさつでは、教員免許の修士レベル化をはじめ、教育を取り巻く環境、大学教育の現状について、率直な見解を聞くことができた。
隠岐プラザホテルで行われた懇親会では、ビュッフェスタイルで隠岐の料理を味わいながら、兵教大での苦労話、教官や友人との思い出に花を咲かせた。

巡検の途中で学長に出会った学部卒業生(隠岐に職員研修で来ていたようです)が、どうして学長が来ておられるのかを聞き、自分には案内がなかったといったことも話題になった。隠岐では、学部卒業生も一緒に同窓会を行っている。人数が少ないことも理由であるが、もう一つ、学部卒業生の中から大学院派遣生が出て欲しいという願いもあつた。このことである。県本部でも同窓会活性化のために検討してもらいたいところである。

翌朝は、恒例の漁業体験が実施された。参加した加治佐学長はじめ四名は、型のよいレンコダイを一人七枚も釣り上げ、隠岐土産とさめした。
最初は消極的であった総会開催でしたが、終わってみると、地元隠岐のよさを確かめ、会員の団結心を高めることができ、充実感を感じることができた。

隠岐の支部総会開催は、情報不足のために継続審査となつていますが、いざいざ定されるものと思えます。ぜひこ来島ください。



シリーズ5「あれから」

兵庫教育大学大学院 派遣と今の私

(第十二期 生徒指導コース)
村木 隆夫

私が兵庫教育大学へ派遣して頂いた期間は、平成三年四月から平成五年三月までの二年間です。学生寮で単身生活を送りました。大学院では、派遣時の勤務校の西郷中学校が文部省の生徒指導の研究指定校であったこと、生徒指導講座(文部省)を受ける機会があったことなどから、生徒指導コースを選びました。そして「生き方指導としての進路指導」や「開発的なカウンセリング(キャリア・カウンセリング)」を学びたいとのことから、内藤勇次先生

の研究室で勉強をさせて頂きました。
当時の生徒指導コースは、それぞれの地域や全国でかなり専門的に研究実践を積んできた仲間ばかりでした。私は講義はもろもろのことですが、仲間達についていくのには必死だったことを覚えています。専門用語がわからない、パソコンがわからない、わからないことだらけでした。自主ゼミをつくって、講義終了後にはゼミを越えて勉強会をしたこと、ひたすら専門書を読みふけたこと、今にして思うととても充実した日々を過ごしました。

私は「生き方指導をふまえた進路学習が生徒の進路意識の向上に及ぼす影響」というテーマで研究をしました。それは、中学校の教師になつてからずっと「生徒が自らの生き方を考え、夢や目標の実現に向かって努力をしていくための教師の指導のあり方」に強い関心をもつていたからです。今こそキャリア教育が注目されていますが、当時は、進路指導を研究テーマに選ぶ院生はほとんどなく、院生の大半は臨床心理学系のテーマか教育学系のテーマを選んでいました。ややマイナーな研究テーマではありましたが、ちょうどM2の時に、偏差値輪切りによる進路指導の批判が全国的に起こりました。その時に、「我々が取り組んでいる進路指導の研究がこれからはもっと注目されていくね」と指導教官の内藤先生に言われたことを思い出します。

研究の概要は、進路学習のモデルをつくり、それを系統的・計画的に実践することで生徒の進路意識の変容をみていくものでした。幸いにして、中学校に戻つてからの研究を基に、郡教育研究大会で発表する機会を頂きました。研究テーマは、「自らの生き方を考え、意欲的に活動する生徒の育成。一生徒に自己決定の場を与える指導の在り方を通して」です。全ての教育活動を生き方指導としての進路指導の考え方で取り組んでいくという実践研究でした。研究の視点、考え方をめぐって随分と校内で議論を重ねたことが懐かしく思われます。今で言えるキャリア教育を柱として、学校教育活動をどう進めていくかというところでしようか。

兵庫教育大学の二年間では、実に多くの学問や仲間と出会いました。その中で感謝しても感謝し尽くせない存在の方が、指導教官の内藤勇次先生です。内藤先生との出会いはまさにその後の私の教員人生を大きく変えるものとなりました。とても温厚なお人柄でいつも院生一人一人を大切にしてくれた先生

です。大学院修了後も折りにふれて、指導・助言を頂いています。そして先生の一言で一念発起して、小学校教諭の免許を取得したこと、キャリアアカウンセラーの資格を取得したことは今の私の仕事を大きく支えてくれています。

また、兵庫教育大学の派遣者としていつもプレッシャーに思うことがあります。それは、今、自分は何ができていますか？ということ。派遣されるのが評価ではなく、派遣された後に何ができるかが評価だと厳しい言葉を聞きます。それは兵庫教育大学だけに限られたことではないのですが、大学院で学んだ成果を今の仕事に十分生かしているのか、絶えず自問自答しています。(なかなかできていなくて反省のくり返しが...)そして、このことは、これからも絶えず自分に言い聞かせていくべきことだと肝に銘じています。

大学院を修了してから二十年が経ちました。今日まで考えてきたことは、進路指導をライフワークとして研究するということが、自らの生き方も真剣に考えること、ということ。今この原稿を執筆するに当たって、内藤先生の言葉が鮮明に蘇ってきます。退官直前であった先生が、私に「人生は六十歳からだよ」と語ってくれたお言葉。当時の先生の心境が、今の年齢(五十三歳)になって少しずつわかかってきたような気がします。まだまだこれから自分の夢や目標をもち、その実現に向かって頑張る気がします。

島根県支部同窓会総会

隠岐大会に参加して

出雲支部長 加藤 武行

最初は欠席の予定でしたが、岩田前会長から特別動員要請があったため、かなり無理しての参加でした。しかし、一泊二日後の船中では、「参加してよかった」という満足感と斉藤プロック長をはじめ真心あふれるおもてなしのおかげで、すっかり隠岐プロックの皆様への感謝の気持ちでいっぱいでした。

大会での「隠岐ジオパークについて」の講演と巡検は一般的な観光案内とは違って、知の興味を大いにそそり、実に有意義な時間を過ごすことができました。行政マンとしての野邊さんの知識の深さと世界ジオパーク認定に向けての熱き情熱を感じました。

加治佐学長のスピーチの内容や懇親会での情報交換の様子など、また院生と学部卒業生とが合同で同窓会を運営するなど正に「渾身に出てくるような絆の厚い隠岐ならではの人情等々、書きたい感想は尽きません。

括は然るべく担当の方が記述されると思われまので、ここでは加治佐学長の知られざる釣りの達人ぶりを報告することにします。二日目の早朝、斉藤さんにチャーターしてもらった釣り船で出発した際には、加治佐学長・梶谷会長・岩田前会長と私の四名でした。魚群探知機なしで全く船頭の経験と勘をたよりに40分かけてスポットに到着しました。さつそくそれぞれに電動リールと餌の工

を渡され、餌のつけ方、引いた時のリールの使い方等簡単な説明を受けると、四人は一斉に糸を垂らしました。しばらくの間は、釣れたと思ってスイッチを入れて釣り糸をたぐり寄せてみると餌だけがとられていするなど悪戦苦闘が続きました。その内に、ふと私と向かいで釣りをされている加治佐先生の姿に釘付けになりました。

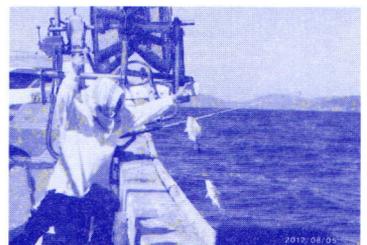
先生は、与えられた電動リールを横に置いて手糸を操り、一匹ずつどこか二匹も同じ時に釣り上げていられるではありませんか。しかも餌の付け方・糸を垂らして引きを待つ姿・引き上げる所作など一連の身のこなしが実に自然で堂に入っており、プロ以上の腕前と見受けました。こちらは、「これはすごい」と自分の釣りを忘れ、急速カメラマンに転身したところでした。(掲載の写真は、波は穏やかに見えても船はかなりローリングしており、何十枚撮った中の貴重な一枚です。)

釣りの成果は加治佐先生が断トツでしたが4人平等に分け、思い出しのついでに話した最も価値ある隠岐のおみやげとなりました。勿論、家族にはこれは「自分が釣ったもの」と自慢したものでした。

加治佐先生も周囲の方々に隠岐のみやげ話をされる中で、ご自分の釣りの達人ぶりにふれられるだろう時、その真実は容易に信じてもらえないだろうと考え、後日数枚の証拠写真をお送りしました。ここで先生の返礼の一部を無許りで公表します。

「...島根県支部の活動ぶりに元気をいただきました。隠岐の島は予想以上に『異質世界』でした。自然環境や朝鮮半島との交流による文化のきれいなこと、魚影の濃いこと、こちらとは大違いです。この魚釣りや隠岐の島巡検が私の唯一の夏休みになりました。...」

私も最初は消極的参加でしたが、今思い起こせば、今夏で最も充実した、楽しい一時となりました。本当に温かく親切に対応していただいた隠岐プロックの同窓生の皆様に深甚なる感謝を再度申しあげ、報告とします。



島根県支部同窓会総会

隠岐大会に参加して

浜田支部 田中 澄好

(大田市立高山小学校)

平成二十四年八月四日・五日、島根支部総会(隠岐大会)に参加しました。総会には兵庫教育大学の加治佐哲也学長も出席され、大いに盛り上がった総会となりました。

隠岐と言えば、日本海に浮かぶ美しい島、何度訪れても、また行きたくならない魅力のある島です。隠岐は絵の島、花の島と言われるように、自然の美しさ、素晴らしさはもちろんですが、古くからの歴史・伝統文化、美味しい食材。そして何よりも隠岐の皆さんの温かい心。その全てに触れさせてほしい。隠岐支部の皆様には、心こもった受け入れをしていただき、心より感謝申し上げます。ありがとうございます。

さて、研修では、かつてユーラシア大陸の一部で、日本海誕生の足跡が分かる今話題の隠岐ジオパークについての説明を受けました。隠岐諸島は、ユーラシア大陸の縁辺であった時代から、湖の底の時代、深い海の底の時代、島根半島と陸続きになった時代を経て、約一万年前に現在のような離島となったこと。こと。大陸から島に移り変わったこと。よって独自の生態系や文化が生まれ、展示館では、何億年も前から「大地の成り立ち」、その大地の上に成り立つ「独自の生態系」、更にそれらの上に成り立つ「古代から現代へと続く人の営み」の関係を一体的に見学するこ

とができました。あらためて隠岐の魅力に触れることができました。

その後、隠岐支部の皆さんの自家用車に便乗し、隠岐の島町内のフィールドワークにでかけました。隠岐騒動で有名な国指定重要文化財の億岐家として隣接する玉若酢命神社を参拝しました。この神社は隠岐の島の氏神様ということで、歴史は古く、その格式も高く、神聖かつ荘厳な雰囲気を感じました。境内には国の天然記念物の樹齢二千年ともいわれる「八百杉」が、屋久島の杉にも劣らぬ堂々たる姿で立っていました。

福浦トンネルは、人の生活と土木技術の推移が関連付けられて見られることから、日本土木学会が選定する土木遺産にも選ばれており、約五百万年前の火砕流の内部が観察される場所として貴重なトンネルです。手掘りの跡や明り取りの横穴は、当時の生活を感ずるものでした。

懇親会は、隠岐教育事務所長森哲教授にもご臨席いただき大いに盛り上がりました。今年度の隠岐支部総会では、隠岐の自然や歴史・伝統文化の素晴らしさを堪能させていただきました。また、何より隠岐支部の皆さんの真心、熱い心に触れさせていただき、思い出に残る素晴らしい総会となりました。

最後に、宣伝です。平成二十五年度の同窓会島根支部総会は、浜田支部が担当いたします。現在、山根明人浜田支部長を中心に浜田支部会員で準備を進めています。平成二十五年八月十日(土)に、世界遺産「石見銀山」のある大田市で開催します。総会は大田駅前の「あ

すてらす」で行い、懇親会は風光明媚な碧根海岸の旅館を予定しています。

多数の皆様のご参加をお待ちしております。

